

「平成 2 1 年度夏期授業実践講座」 実施報告書

講座名	「特別支援講座Ⅱ」	
講師	緒方 茂樹 氏（琉球大学教育学部 特別支援教育専修 教授）	
実施日時	平成 2 1 年 8 月 1 2 日（水） 9 : 3 0 ~ 1 2 : 0 0	
参加者	3 9 人	
講座内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. システム教育学のすすめ（資料より抜粋） <ul style="list-style-type: none"> ○宮古圏域における特別支援教育の現状と将来 ○縦割り行政の弊害 2. サポートノート「えいぶる」の試用について <ul style="list-style-type: none"> ○「えいぶる」の試用の経緯 	
参加者の感想・質問など	<p>○システム教育学の話は、他の研修では聞けない内容で、とても興味深かったです。</p> <p>○前年度、前回、今回と 3 回連続して受講しています。毎回新しいことを学習し勉強になっています。次年度は再度、概論を拝聴したいです。</p> <p>○事例を出しての講座Ⅰもとてもわかりやすかったのですが、今回のⅡも勉強になりました。えいぶるノートのことは、職場で話題にしなければと思いました。人が関わること、人が変わっても子どもたちに必要な支援が行き届くことの重要性、「システム」について考えさせられました。</p> <p>○「えいぶるノート」があると、その子の必要な情報がきちんと把握でき、一貫した指導が行えるので、とても良いものだと思います。</p> <p>○子どものニーズに合った機関へ相談できる体制作りに努力されているんだなと感心させられました。今後は「えいぶるノート」を活用した事例が出てくると思います。その事例をもとに、どのような関わりをもったのか、学校や各機関とのよりよい関係の築き方など、知りたいことが増えました。</p> <p>○子供の実態を把握するには、やはり連携が大切だということを改めて感じた。しかし、連携はなかなか取りにくいもの。その連携の良い例として「えいぶるノート」があることを詳しく聞けて良かったです。連携をうまくつないでいかないと本当に子供は育たないと思う。せっかく今、特別支援教育が大きく取り上げられているので、もっと理解者が広がってくれればと思います。</p>	